

厚生労働科学研究費補助金

障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））

（総合）分担研究報告書

身体疾患を合併する精神疾患に対するアクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）の適用に関する研究

研究分担者 熊野宏昭

早稲田大学人間科学学術院 教授

研究要旨

研究目的: 様々な精神症状を伴うことの多い慢性身体疾患に、新たな認知行動療法であるアクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）の適用可能性を探る。平成 25 年度は適用方法に対する研修を実施し、平成 26 年度は、「ACT が外来 2 型糖尿病患者のセルフケアおよび血糖コントロールの改善に及ぼす影響を検討する無作為試験」を開始した。

研究方法: 平成 25 年度は、糖尿病を始めとした慢性身体疾患に対する ACT の適用方法についてレビューを行い、その成果に基づいて資料を作成し、「身体疾患患者へのメンタルケアモデル開発ナショナルプロジェクト 2013 年度第 1 回ステップアップ研修」を実施する。平成 26 年度は、日本人外来 2 型糖尿病患者 140 名を、ACT 群と教育群に層別無作為化した上で 70 名ずつ割り付ける。ACT 群には 1 時間の糖尿病教育と 3 時間の ACT、教育群には 4 時間の糖尿病教育を実施する。血糖コントロールを HbA1c 値で、セルフケア行動を質問紙の J-SDSCA で、関連する要因を AADQ、PAID、注意機能尺度、および神経心理課題（WCST、GoNogo 課題）でそれぞれ介入前と 3 か月後に比較し評価する。

結果: 平成 25 年度は、20 名余の参加を得て、上記研修会を実施した。平成 26 年度は、ACT 群、教育群とも 2 日間に分けて実施したが、それぞれ 30 名、23 名の参加が得られた。

まとめ: 糖尿病を始めとした慢性身体疾患に対する ACT の適用方法について研修を実施するとともに、外来 2 型糖尿病患者を対象にした ACT のランダム化比較試験を開始した。

研究協力者氏名・所属施設名及び職名

| | | |
|------|--------------------------|-------|
| 大内佑子 | 早稲田大学人間科学学術院 | 助手 |
| 野田光彦 | 独立行政法人国立国際医療研究センター糖尿病研究部 | 部長 |
| 峯山智佳 | 独立行政法人国立国際医療研究センター糖尿病研究部 | 客員研究員 |

A. 研究目的

様々な精神症状を伴うことの多い慢性身体疾患に対して、認知行動療法的アプローチの 1 つである「アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）」の適用可能性を探ることを目的とする。平成 25 年度はそのための研修を実施する。そして平成 26 年度は、「ACT が外来 2 型糖

尿病患者のセルフケアおよび血糖コントロールの改善に及ぼす影響を検討する無作為試験」を開始する。

B. 研究方法

平成 25 年度は、糖尿病を始めとした慢性身体疾患に対する ACT の適用方法についてレビューを行い、その成果に基づいて資料を作成し、「身体疾患患者へのメンタルケアモデル開発ナショナルプロジェクト 2013 年度第 1 回ステップアップ研修」を実施する。

平成 26 年度は、日本人外来 2 型糖尿病患者 140 名を、ACT 群と教育群に、性別、ベースライン測定時の HbA1c 値および BMI の 3 要因で平準化するように層別無作為化した上で 70 名ずつ割り付ける。ACT 群には 1 時間の糖尿病教育と 3 時間の ACT、教育群には 4 時間の糖尿病教育を実施する。血糖コントロールを HbA1c 値で、セルフケア行動を The Summary of Diabetes Self-Care Activities Measure(日本語版セルフケア行動評価尺度; J-SDSCA)(大徳ら、2006)で、関連する要因を、Problem Areas In Diabetes Survey(糖尿病問題領域質問票; PAID)(石井、2001) Acceptance and Action Diabetes Questionnaire(AADQ)(Gregg, 2004) 注意機能尺度(鈴木、2005)および Wisconsin card sorting test(ウイソシンカードソーティングテスト; WCST) 衝動性抑制課題(Go/NoGo 課題)でそれぞれ介入前と 3 か月後に比較し評価する。HbA1c 値は 6 ヶ月後も測定する。

得られたデータは横断的にも解析し、多母集団同時分析を用いた因果モデルを作成して日本人を対象とした ACT の介入効果の詳細を予測するための検討を行う。

(倫理面への配慮)

本研究は、独立行政法人国立国際医療研究センター倫理委員会、早稲田大学人を対象とする研究に関する倫理委員会による承認を受け、研究実施に当たっては、参加者からの文書による同意を得る。

C. 研究結果

平成 25 年度は、研修会を実施し、20 余名の参加を得た。参加者の大部分にとっては新たに学ぶ介入方法と思われたが、今後適用してみたいという意見も聞くことができた。

平成 26 年度、ACT 群は、糖尿病専門医 1 名と臨床心理士 2 名が担当し、教育群は、糖尿病専門医 2 名、理学療法士 1 名、管理栄養士 1 名が担当した。そして ACT 群、教育群とも、独立行政法人国立国際医療研究センター国府台病院において、2 日間に分けて実施され、それぞれ 30(14+16)名、23(15+8)名の熱心な参加が得られた。今後 3 か月後のデータを収集し、介入効果を検討する。

横断的解析では、研究協力者 112 名のうち、回答に不備のない 102 名を解析対象とした。平均年齢は 61.3 ± 7.71 歳、男性 48 名・女性 54 名で、HbA1c 値は 7.67 ± 5.73 であった。HbA1c 値を従属変数とした重回帰分析を行った結果、注意機能尺度の「注意の分割」、BMI、総コレステロール値で標準偏回帰係数が有意であった ($R^2 = 0.26$)。

D. 考察

平成 25 年度における研修実施と参加者の意見を踏まえると、わが国においても、近年広く実践されるようになってきた ACT を、様々な精神症状を伴うことの多い慢性身体疾患に適用できる可能性は大きいと思われた。

平成 26 年度は、「ACT が外来 2 型糖尿病患者のセルフケアおよび血糖コントロールの改善に及ぼす影響を検討する無作為試験」を開始したが、当初の目標参加数 140 名に対して 53 名の参加にとどまった。参加者の熱心な様子からは、ACT をグループ療法で糖尿病患者に適用するフィージビリティが示された。

E. 結論

わが国においても、ACT を様々な精神症状を伴うことの多い慢性身体疾患に適用できる可能性は大きい。実際に、外来 2 型糖尿病患者を対象にした ACT のランダム化比較試験を開始したところ、グループ療法で糖尿病患者に適用するフィージビリティが示された。今後、介入効果を明らかにすることで、実際の適用可能性についてさらに検討を深めたい。

F. 健康危険情報

特記すべきものなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

大内佑子，峯山智佳，野田光彦，熊野宏昭：
アクセプタンス&コミットメント・セラピーが
外来 2 型糖尿病患者のセルフケアおよび血糖コ
ントロールの改善に及ぼす影響を検討する無作
為試験 - 研究プロトコルの報告．第 8 回生活習
慣病認知行動療法研究会，2014

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。